

ヒバリ



刈払い機がなぎ倒す草の下にチラリと異物が見えました。黄色い色が点滅したように感じたのです。とっさにヒバリの巣だと思いました。機械を止めてそっと草を除けてみたら今朝孵化したばかりと見えるヒナが3羽、枯草で作られた巣の中にうずくまっていました。まだ目が開いていません。私の手の気配を親ヒバリと勘違いして嘴を大きく開け、頸をいっぱい伸ばしてゆらめくのです。ここは当別青山地区のオイスカの植林地で、2007年8月5日曜日、今年2度目の草刈作業を9時30頃開始して約1時間経過した10時30分頃のことでした。酒井さんが他の作業者に踏み潰されないようにイタドリの茎3本を組んで目印をつけてくれました。約1ha程度の植林地の草刈に10台ほども機械がエンジン音をひびかせているので親が近寄るわけがありません。親を確認できないまま14時頃には作業を終え、帰路につきました。



ヒバリは子供の頃ヒナから育てたこともありますので古い馴染みなのです。九州筑豊地帯の遠賀川川原ではじまり、古希を迎えたここ北海道の豊平川川原でも親しんでおります。比較的草丈の短い草地に巣づくりをしますが、麦畑やこの植林地のようにやや草丈の長い草地にも営巣します。春、雄が縄張りを主張するために螺旋状にややホバリングに近い上昇旋回しながら遠くまでよく聞える美声でさえずりますので、紛れることのない鳥です。声が聞えるのに上空に姿が見えない時など地上でさえずっていることもあります。

分布は広く、北極圏を除くユーラシアと北アフリカに及ぶので、日本でも全国区です。ために鳥に関心が薄い人でもヒバリの声を聞いたことがない人は少ないと思うのですが、大都会や山村の住民ならば姿を見たことも声を聞いたこともない人がいるかもしれません。草地の鳥として代表的なのであります。ところで今回の巣ですが、8月初旬に孵化したばかりであることがすこしひっかかります。二腹か三腹目かでしょうが、ヒバリにしては遅いと思われるのです。もしかしてセンニュウの巣であるかもしれないと思ったりします。当別ダム建設のために立ち退きをさせられて放置された農地で当別川の河川敷でもありますので、センニュウの生息環境でもあります。しかし、孵化直後の雛の段階で同定できるほどの専門家ではありませんので、ここは春に親達の姿を確認していることでヒバリにさせていただきます。

当別川は石狩川の支流で上流部に青山ダムがあります。そしてこの中流部に当別ダムができるのです。このダムより下流は平地が開けてきまして

石狩平野に連なります。ダムより上流部は殆ど立ち退きさせられて住民の少ない超過疎地となりはてました。自動車道路から見えない山の傾斜地にも放棄された採草地や畑があちこちにありますが、それらは自然任せで長い時間をかけて森林へと変遷してゆくであります。立ち退きで買い上げとなった土地は道有地です。道民の森に連なる道有林の中の伐開地ともいべき土地なので、ヤナギ類が自然に侵入してくる河川敷よりもむしろ山中の放置牧草地こそ人工植林が必要な場所だと思ふ次第であります。